



水稻 (C3 型) とトウモロコシ (C4 型光合成)

— 地球温暖化対策? —

<https://l-hospitalier.github.io>

2021.8

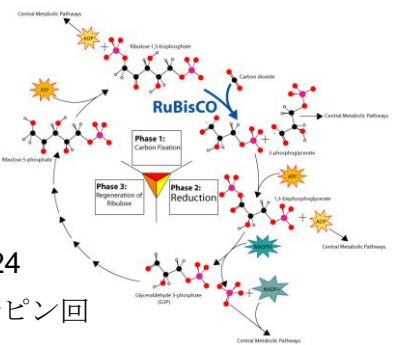
感染対策の基礎知識

#290

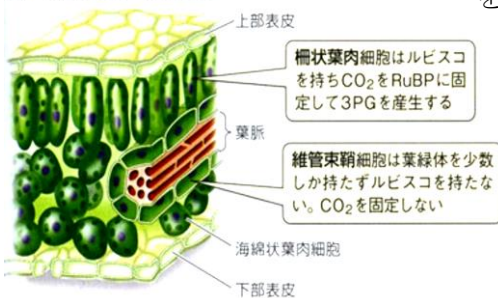
【光合成】植物の光合成は太陽エネルギーを固定する唯一の方法で、全ての生物はエネルギー取得をこのシステムに依存する。光合成には明反応 (light reaction) とカルビンとベンソンが解明した暗反応 (dark reaction、右下図) があり前者が光エネルギーの固定、後者が糖合成を担う。明反応は光化学系 I (PS I) で 700 nm 以下の波長の光で NADP^+ を NADPH に変換、光化学系 II (PS II) で 680 nm 以下の波長の光で H_2O から電子を取り去り H^+ (と O_2) を生成、 NADPH と ATP を産生する。暗反応の収支は NADPH と ATP を使って $6\text{CO}_2 + 12\text{NADP} + 18\text{ATP} \rightarrow \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 12\text{NADP}^+ + 18\text{ADP} + 18\text{P}_i$ 。明反応からの最終的収支は $6\text{H}_2\text{O} + 6\text{CO}_2 \rightarrow \text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_6 + 6\text{O}_2$ 。【RuBisCo、ルビスコ】

リブローズ-ビスリン酸カルボキシラーゼ/オキシゲナーゼ (ribulose-1,5-bisphosphate carboxylase/oxygenase) は地上で最も多いタンパク質で暗反応 (カルビン回路) の CO_2 固定の中心。【C3 型と C4 型植物】世界 3 大穀物はトウモロコシ、小麦、米。この中ではトウモロコシだけが C4 植物で他は C3 型。イネ科植物のトウモロコシやサトウキビは 28°C 以上の高温乾燥で効率よく CO_2 を吸収、 O_2 と糖を産生。 28°C 以下では

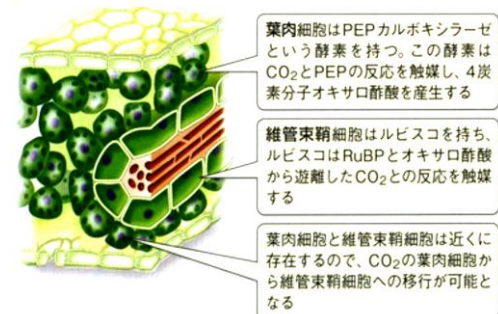
C3 植物は光吸収が無い時 ATP 18 分子で 6 単糖を 1 分子合成し C4 の 24 分子より高効率。1950~60 年にコーチャックとカルピロフによりカルビン回路の前段階に炭素 4 原子 (C4) のオキサロ酢酸を経由する CO_2 を濃縮、固定する回路が示され、1966 年に MD ハッチ (豪) と CR スラックにより詳細が明らかになった。カルビン回路だけで糖合成する植物はルビスコにより 5 炭素のリブローズ 1,5-ビスリン酸に CO_2 が結合して 2 分子の 3-ホスホグリセリン酸 (3 炭素) を生成するので C3 植物と呼ばれる。C4 植物でも CO_2 固定はカルビン回路によるが、前処理として柵状葉肉細胞のホスホエノールピルビン酸 (PEP) カルボキシラーゼで CO_2 を PEP に結合して 4 炭素のオキサロ酢酸を合成 (植物によってはリンゴ酸に変換)、維管束鞘細胞へ輸送する。リンゴ酸やオキサロ酢酸は維管束鞘細胞でリンゴ酸デヒドロゲナーゼにより CO_2



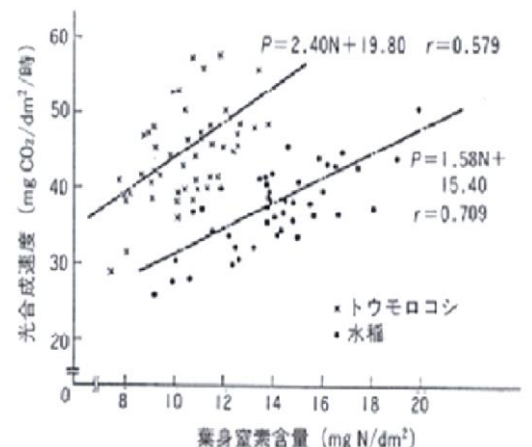
A) C₃ 植物の葉の細胞配列



B) C₄ 植物の葉の細胞配列



を放出。維管束鞘細胞にはルビスコ (カルビン回路) があり糖の合成を行う。この前処理系により C4 植物では高温乾燥時に気孔を閉じてでもカルビン回路に持続的に CO_2 を供給できる (C4 植物は維管束鞘細胞が発達しており見た目に葉脈が太い)。C4 植物は高温乾燥に強くトウモロコシは熱帯、亜熱帯の主要穀物。小麦や水稻も PEP の遺伝子配列を持つので C4 経路の起源は古いと思われ、進化の過程での選択であろう^{*1}。右は C4/C3 の比較。乾燥に強いサボテンなど多肉植物で CAM 型光合成 (Crassulacean Acid Metabolism) を行う植物もある。



^{*1} EU は 3 to 4 project で稲の C4 化を研究中。